



近中通信

2021年7月
第90号



かかりつけ医と
近中を結ぶ

新任部長紹介

令和3年（2021年）4月より当院皮膚科に赴任いたしました。大学を卒業してから、すでに30年以上を経ております。還暦にも近くなり、今までのような着任時のご挨拶はやめておこうと思います。「新任」部長というより「老兵」部長の方が似合っていますので。

私の専門は「乾癬」という皮膚疾患です。欧米人では50人に1人が持っている疾患ですが日本では約1000人に1人くらいです。まだ完全には原因が解明されてはいませんが、長い歳月を経て少しずつ研究が進んでおり、結論が出るまであとわずか？という感じでしょうか。症状は皮膚がところどころ赤くなり、その表面の角質が厚くなり、ぼろぼろっと落ちてくる印象です。見た目が良くないこともあり、また感染症との誤解を受けて、患者さんは大層つらい状況に置かれることもあります。

私が医者になったころ（1990年頃）は治療と言えば、ステロイドの塗り薬もしくはPUVA療法でした。PUVA療法というのはソラレン（Psoralen）という薬を患部に塗ったあとに長波長紫外線（UVA）を当てるという治療法です。ソラレンという液体の薬を筆で患者さんに塗ってあげてから紫外線をあてるというのが、私の仕事でした。処置にかなりの時間がかかりますが、患者さんとゆっくり話をしながら「手当て」をするという感じの仕事でした。



皮膚科部長 吉良 正浩

その後、新しい薬や治療法がゆっくりとではありますが、続々と誕生しました。ビタミンD3外用薬、レチノイド内服（ビタミンA誘導体）、シクロスポリン内服（免疫抑制剤）、ナローバンドUVB療法、生物学的製剤などです。それぞれに長所、短所があり、副作用に対する警戒、対処も必要になりました。特に生物学的製剤については値段が高く、高額療養費制度を考慮して、処方の方も考える必要があります。医学というより経済学、経営学も必要といったところでしょうか？考えなくてはならないことが一気に増えてきたような気がしてきました。

時代は大きく変わったようです。しかし、最近、ある患者さんからご指摘をいただきました。「先生は私の話を全く聞いてくれません。」とのことでした。はっきりとした記憶はないのですが、おそらく電子カルテに何かを入力することに一生懸命になり、やってしまったようです。「初心忘るべからず」ではないですが、患者さんのお話をじっくり聞きながらソラレンを塗っていた昔を思い出して、反省した今日この頃です。

当院は日本脳卒中学会より一次脳卒中センター(PSC)に認定されました

脳神経外科部長 西野 鏡雄

日頃より当院の診療に多大なるご理解とご協力、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。このたび当院では更なる救急医療充実のために、一次脳卒中センター(PSC)の認定を取得いたしました。ブレインコールの運用時間も延長しておりますので、脳卒中のみならず脳神経疾患が疑われる患者様がおられましたら遠慮なさらずにご相談ください。また、状態が安定した患者様は地域の先生方にご紹介差し上げ、より一層連携を深めていきたい所存です。

地域の皆様に信頼された病院を目指し、患者様の健康で安心した生活に貢献できますよう日々努力を重ねてまいりたいと思っております。今後とも引き続きよろしくようお願い申し上げます。

●一次脳卒中センター(PSC)とは

地域医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法を含む)を開始できる施設で、下記の要件を満たす必要性があります。

●一次脳卒中センター(PSC)の要件

- 1) 地域医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法を含む)を開始できる
- 2) 頭部CTまたはMRI検査、一般血液検査と凝固学的検査、心電図検査が施行可能である
- 3) 脳卒中ユニット(SU)を有する
- 4) 脳卒中診療に従事する医師(専従でなくてもよい、前期研修医を除く)が24H/7D体制で勤務している
- 5) 脳卒中専門医1名以上の常勤医がいる
- 6) 脳神経外科的処置が必要な場合、迅速に脳神経外科医が対応できる体制がある
- 7) 機械的血栓回収療法が実施出来ることが望ましい
実施できない場合には、機械的血栓回収療法が常時可能な近隣の一次脳卒中センターとの間で、機械的血栓回収療法の適応となる患者の緊急転送に関する手順書を有する
- 8) 定期的な臨床指標取得による脳卒中医療の質をコントロールする

ブレインコール対応時間を拡充しました

当院では、脳神経系疾患にて救急診療を要すると考えられる場合、開業医の先生方からの電話を、直接、担当医師(脳神経外科または脳神経内科医師)が対応する「ブレインコール」を開設しています。どうぞ、ご活用ください。

ブレインコール

(脳神経外科/脳神経内科)

☎ 080-6162-3210

医師が直接対応します!

月～金曜日 8:30～翌朝8:30(24時間)

※祝日は休診となっております。



左から中村医員(脳外)、上道副院長(脳内)、西川医長(脳内)、西野部長(脳外)、甲村病院長(脳外)、佐々木医員(脳内)、中西医長(脳外)、平山医長(脳内)

奨励研究発表会を開催しました ～当院の学術活動について～

学術委員会委員長・耳鼻咽喉科部長 橋本 典子

令和3年6月7日、当院講堂にて奨励研究発表会を実施し、4名の職員が研究の成果を発表しました。当院では学術委員会を設置し、職員の学術活動を奨励しており、「奨励研究」もその一環です。

「奨励研究」は職員の研究活動を、病院が後押しする制度です。職員から提出される1年間の研究計画について、学術委員会及び病院長が審査を行い、病院が奨励する研究課題が決定されます。

「奨励研究」の研究課題は、臨床と直接関連したものであることを条件としており、治療につながるものであるかどうか審査の評価項目のひとつとなっています。当院職員の学術研究が、地域医療や、患者様に還元されるものであることを目指しています。

今回の発表会では、令和2年度の研究成果5題が発表され、質疑応答では診療科の垣根を超えて、活発な意見交換を行うことができました。この5題の要約は、今後発行される「近畿中央病院医学雑誌」に掲載されます。過去の研究内容等にもご興味ございましたら、当院図書室までご連絡ください。

※近畿中央病院 図書室

☎072-781-3712 内線 235（月～金曜日（祝日、年末年始休暇除く）午前10時～午後4時30分）



泌尿器科 小林医長



近畿中央病院医学雑誌

令和2年度奨励研究発表会 プログラム

1. たこつぼ症候群の心室壁運動異常についての検討
臨床検査科 奥永 明子
2. 当科における上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘除術の臨床病理学的検討
泌尿器科 小林 泰之
3. TUEB (transurethral enucleation with bipolar) に伴う勃起機能への影響についての検討
泌尿器科 小林 泰之
4. 原因不明の紅彩炎及び続発緑内障に対する前房水PCRによるウイルス学的検査
眼科 吉岡茉依子
5. 直接経口抗凝固薬 (DOAC) 服用患者の抜歯後止血に関する検討
口腔外科 高畑 惣介

● 学術委員会の活動について

「奨励研究」の他に、学術委員会では以下の活動を行なっています。

- ・近畿中央病院医学雑誌の編集と発行

当院職員の原著論文、症例報告、短報、学術報告（学術活動の記録・奨励研究報告）を掲載した冊子で、1980年より刊行され、2020年号は第41巻となります。

- ・図書委員会を設置し、購入図書、雑誌の選定と管理

当院は「h-Anshinむこねっと」患者情報共有システム加入病院です

「h-Anshinむこねっと」患者情報共有システムとは？

患者様の同意のもとに、各医療機関に保管されている医療情報を高度に暗号化してインターネットで結び、医療機関相互で共有することにより、診療に役立てるための仕組みです。

つまり、このシステムはICTを活用して複数の医療機関を接続し、診療情報を共有して地域全体で医療に取り組むシステムです。

***同意をした患者様の情報のみが公開されます。**

医療機関の全ての診療情報が公開されるわけではありません。

【共有画面のイメージ】



【当院の公開内容（令和3年6月現在）】

- | | | | |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者基本情報 ・ オーダ情報 ・ 検査結果 | <ul style="list-style-type: none"> 患者基本属性情報 入退院履歴 処方オーダ 注射オーダ 検査結果（血液・尿等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像データ ・ 医師のメモ | <ul style="list-style-type: none"> 一般撮影 CT MRI |
|---|--|--|---|

参加医療機関の先生方におかれましては、画像情報や血液・尿検査、投薬・注射処方などの診療情報を速やかに把握することができます。今後ご活用いただきますようお願い申し上げます。

（参加ご希望の場合 連絡先）

尼崎市医師会むこねっと準備室 TEL 06-6422-6510

近中メールマガジンにお申込ください

当院では、勉強会・研修会・時間外救急当番医等の情報を近中メールマガジンにて随時メール配信しております。登録をご希望の場合は ①所属、②氏名を記載の上、下記アドレスまでご連絡ください。



電子メール：kichmail@kich.itami.hyogo.jp